

浄心寺だより

発行

浄心寺門信徒会

郵便番号714-0081
笠岡市笠岡2065
電話(0865)62-2623
FAX(0865)62-2595
振替01260-9-13760
<http://joshinji.suki-ari.net/>



「み法を味わって」(三)

仏智

人生にとつて、知識や経験は大切なものです。『龜の甲より年の功(劫)』と言われる通りです。しかし、それはただ単に多ければ良いということではありません。一応無いより有る方が良いとはいえるでしょう。しかし知識や経験は積木のよう重ねていくだけではあまり意味がありません。小学校で習ったことの上に中学校の勉強が成り立つのですが、コンクリートの土台に木の柱を据えるのではなく、人参やゴボウに塩や砂糖や熱を加えてもつと味のよい消化しやすいものとするように、これまでの知識経験の上に新たな知識経験が混じり合い、溶け合って別の物に昇華し、転じられていくときこそ人生の資となります。

ただ、知識経験を積み重ねるだけでも大変なことです。これをさらに高度な、自分にも周囲にも本当に役立つものにするのが仏教という「智慧」の働きです。

その仏智を聞くお聴聞をしましょう。

鷹谷俊昭著『月ごとのことば』 転載

宗祖降誕会

五月九日(日) 十三時半より

講師 芳井町光栄寺 佐藤 知水師

ごあんない

※門信徒総会中止(書面送付)
※花まつり同時開催



春季彼岸会・永代経法要つとまる

三月十九日、十三時半より春季彼岸会、門信徒総追悼永代経法要が勤まりました。

一同で阿弥陀経をお勤めした後ご法話を拝聴しました。講師は福山市新市町、西福寺の山名孝彰師。

ご法話ではまず「ご讃題」といって、法話の柱となる文を読み上げてから話に入るのが定石ですが、今回は、「本願力に遇いぬれば、むなくすぐる人ぞなき。功德の宝海みちみちて、煩惱の濁水へだてなし」如来の作願(さがん)をたづぬれば、苦悩の有情をすてずして、回向を首としたまひて、大悲心をば成就せり」という、親鸞聖人のご和讃二首を引かれました。

本願というのは阿弥陀さまの願いのことですが、お経の中では四

十八願など数多くの願いとして説かれます。わたしたち人間は、いくら修行をしても、いくら善行を積んでも、ちよつとしたことで醜い心を抱いてしまうものです。親鸞聖人にもそうした自覚がありました。阿弥陀さまはそうした醜い人間をこそ救いの対象としている、どんな人も救い取って、抱きとつてくださる、というのがわたしたちの教えです。修行したもので救われる、善行を積まないで成仏できない、そんな教えではないのです。そのままのいいよ、残らず救う、と誓われた阿弥陀如来を信じて、いただいた命を精一杯、自分なりに生きることこそ、お釈迦さまの願われた生き方なのです。

どの内容をみなさんとみていきました。宗教というのは個人の内面の救済のためにあるもので、国の安泰を願ったり世界平和を求めるときは、時に自己犠牲を伴うもので、本来宗教の役割ではありません。政教分離が叫ばれるゆえんです。まして、他宗派を攻撃したり他の信仰を持つ人へ改宗を求めるといったことは、信仰の自由を脅かすものです。

「阿弥陀仏の名の意味」

わたしたちのご本尊「阿弥陀仏」の名前についてみていきました。この語はインド語の「アミタブツダ」を漢字で音写したもので、意味は「アミタ」が「無量」、「ブツダ」が「悟った方」です。阿弥陀さまには別の呼び方もあり、「アミターバブツダ(無量光仏)」「アマターユスブツダ(無量寿仏)」ともいわれます。限りない光を放つ仏さまであり限りない寿命をもつ仏さまなのです。この阿弥陀さまや極楽浄土について説かれるのが浄土三部経ですが、そこに説かれる教えを拠り所に生きていくのが、わたしたちの信仰生活です。

「法要、儀式について」

前回に引き続き、お寺で行われる法要についてみていきました。春秋の彼岸会、永代経法要、宗祖降誕会、法物虫干し法座、盂蘭盆会、報恩講などがあります。

また、お祝いの儀式として、新たに門徒になる「入門式」、法名をいっただいて仏教徒となる「帰敬式」、残念ながらホテルの結婚プログラムには採用されていませんが「仏前結婚式」、お子さんの初めてのお寺参り「初参式」、家にお仏壇を構えて本尊をお迎えする「入仏法要」なども紹介しました。

やさしい仏教講座

第9回 4月7日(まとめ)

「念仏すると地獄に墮ちる?」

あるお通夜の際、控室に親族の女性が入ってこられ、「浄土真宗のお経を読むと故人が地獄へ墮ちるので、やめてほしい」と言われました。あまりにも非常識な言葉にびびくりしましたが、続けて、

「仏法はもう滅びているのだから、一刻も早く日蓮大聖人の教えを信仰しないと、国が滅びますよ」と。

「宗教というのはそれぞれ世界観が違いますから、あなたの信仰はあなたの自由でそれで結構ですが、浄土真宗にも浄土真宗の宗教観があるので、それは尊重してもらわないと困ります。」とお答えし、お引き取り願いました。

彼女は日蓮宗系の信徒団体「顕正会」の方でした。この時いただいた顕正会のチラシや顕正新聞な

門信徒の広場

地区委員さん登場

以前にもありましたこのコーナーですが、あれから顔ぶれもだいぶかわりましたので、再び各地区の委員さんをご紹介します。

地区委員さんのおられない地区もありますが、おられるところは現在五十六地区あり、案内状の配布や会費徴収のほかお寺と地区とのパイプ役を果たすなど、地区委員さんには門信徒会活動の中心を担っていただいています。



生江浜
西地区総代
藤井祐三
さん

生江浜西地区は、平成二年に完成し広大な農地を有する、笠岡湾干拓地に隣接した地区です。

藤井さんは、迎西区・一区の門信徒二十三戸を担当して下さっております。

平成十六年に新聞社を定年退職し、同年に「浄心寺だより」の編集のため、後任に高田泰紀さん(六区、七区担当)が就任されました。よろしく願います。

地区委員さんの交代

入江西地区 (前) 島内喬二さん (新) 水川 仁さん

園井地区 (前) 桃木浩二さん (新) 酒田公子さん

向吉浜東地区 (前) 石井信之さん (新) 守屋克彦さん

それぞれ、一身上の都合で交代されました。これまで大変お世話になりました、ありがとうございます。新役員さん、どうぞよろしくお願いたします。

また三名おられる生江浜地区総代の一人、藤井寛さんが往生さ

集委員に就任以来、平成二十九年に門信徒会会長となり、現在に至っています。

ご家族は、一男二女の子供達と孫六人に恵まれ、今は奥さんとの二人暮らしをされております。日頃は健康維持のため畑に出かけ、自給自足程度の野菜づくりを楽しんでいるそうです。

ここ一年の門信徒会の活動が、コロナ禍の影響により満足な活動が出来てないことを残念に思われており、従前の研修旅行等の活動が一日でも早く行われる様、早期のコロナ禍の終息を願っているとの思いを話されていました。(下)

総会も中止とし、役員の方には書面送付で審議いただきました。その代わり、例年は四月二十九日の白印茶会の時に開催する「花まつり」を法要と同時開催し、阿弥陀堂の前でお釈迦さまの像に甘茶を灌(そそ)いでもらったり、飲んでいただけました。

宗祖降誕会

五月九日(日)十三時半より宗祖降誕会法要をつとめます。昨年は中止しましたが、今年はおつとめとご法話というシンプルな形で開催します。ご講師は芳井町光栄寺、佐藤知水師です。

つきましては、例年の「コール清風ミニコンサート」「チャリティコンサート」「落語」は中止となります。また、午前中に行う門信徒

サマースクール中止します

研修旅行の中止

山口別院への参拝を計画しておりました研修旅行ですが、新型コロナウイルス感染症が収束しないため、残念ながら今年度も中止します。

なお、令和五年には三月から五月にかけて「親鸞聖人御誕生八五〇年・立教開宗八〇〇年慶讃法要」が本山西本願寺でつとまります。本法要へは備中里組で団体参拝する予定でありますので、それに向けて計画を立ててまいります。

還浄(げんじょう)

(敬称略)

小畑トヨコ	2	玉島
長谷川久子	2	吉田
藤田 修三	2	大井南
高橋 正秋	2	福山市
森 ツナ	2	みどりが丘
山田 安彦	2	金浦
藤井保次郎	3	春日台
島田八重子	3	金浦
横山貴美子	3	大門町
阪脇 義将	3	大井南
西江 卓二	3	岡山市
三國 松代	3	枚方市
田川アヤ子	3	鴨方町
藤井 恵子	3	下関市
桑田 美春	4	川辺屋
	2	
93	73	95
97	70	35
87	87	82
85	85	85
105	101	160
83	93	

仏婦行事の中止

例年三月に行う「仏婦例会」と「料理教室」、昨年から延期していた四月の「ダーナバザー」は新型コロナウイルス感染症のために中止となりました。

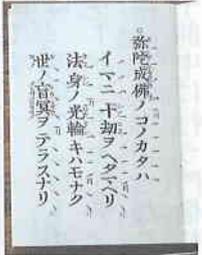
例年三月に行う「仏婦例会」と「料理教室」、昨年から延期していた四月の「ダーナバザー」は新型コロナウイルス感染症のために中止となりました。

浄土真宗



教えと

そのあゆみ



私たちの宗門(9)

聖教(6)

『三帖和讃』(さんじょうわさん)

宗祖は折にふれて念仏のよろこびを詩にして口ずさんでおられました。この詩を人びとに伝え、浄土の教えを理解してもらおうと平安中期に流行った今様形式の詩、つまり和語で讃嘆(ほめたたえる)する和讃を編集されたのです。

親鸞は宝治二年(1248)七十六歳の時、阿弥陀仏とその浄土の徳をたたえた『浄土和讃』百十八首と、インド・中国・日本の浄土教

浄心寺の奇景4

境内の境界が湾曲!

境内の広さは約千七百坪ありますが、北西の境界の一角がとれて湾曲しています。

土地の境界はほとんどが直線で区切られているのが通常ですが、それがカーブしているのです。

言い伝えによりますと「昔、測

の祖師の教えをたたえた『高僧和讃』百十七首が作られました。その後も補訂がされています。

この十年後の正嘉二年(1258)に『正像末和讃』百十六首が作られ、釈尊の滅後、正法・像法・末法と時代が過ぎるにしたがつて、その教えと行と証が失われるなかで、弥陀の本願だけはいつも人びとに真実のさとりを与えるものであることをうたっています。以上の三本を合わせて三帖和讃といえます。

高僧和讃百十七首のうち、龍樹十首、天親十首、曇鸞三十四首、

量の際、区切りとして張つてあつた縄の杭を、誰かがいたずらして抜いて、内側に投げ捨てたから、その部分が入り込んだのだ」と。現在の厳格な測量調査からすると考えられないような、またそれを受け容れるおらかな時代であつたようです。

こぶしの花が咲く

今年も門前のこぶしの花がたく

道緯七首、善導二十六首、源信十首、法然二十首で曇鸞・善導・法然の和讃が多いのは、宗祖がこの三人を特に重視されておられたものと思われます。

また『正像末和讃』の中には「愚禿悲歎述懐」と題し、「浄土真宗に帰すれども、真実の心はありがたし、虚仮不実のわが身に、清浄の心もさらになし」(わたしは浄土真宗に帰依していますが、まことの心もなく、うそ・いつわりにみちた、けがれた心の持ち主です)というような、宗祖ご自身の生きざまを内省したものの六首、仏教界の頹廢を歎いたもの五首があります。

この和讃は正信偈の後に六首ずつ念仏をはさんで拜読されますが、ご本山のご晨朝では繰り読みさん咲きました。三月初めにはたぐさんのつぼみが見られましたが、半ばには開花して、白い可憐な花で門前を彩りました。この木は仏教婦人会の創設二十周年を記念して植樹されたものです。



されます。浄心寺での「朝のおつとめ」でも同様に繰り読みされています。好時節となりました。あなたも朝のおつとめにおまいりください。

法宝物虫干し法座

七月十六日(金) 十三時半より
講師 今治市大三島、万福寺 浅野執持師

初参式

5月4日(火) 10時より

お子さんが初めてお寺参りし、阿弥陀さまにご挨拶する儀式です。
乳児から未就学児までが対象ですが、それより大きなきょうだいと一緒に参加も歓迎します。参加費は子供一人、1,000円。記念品等を差し上げます。お早めに浄心寺までお申し込みください。

編集後記

境内の樹木も新緑に萌える頃となりました。春季彼岸会・永代経法要等の諸報告、これからの宗祖降誕会法要、虫干し法座等々をお知らせする浄心寺だより第一三五号をお届けします。法座・法要等にご参拝頂き御聴聞の仏縁に遇われますよう、お願い申し上げます。(編集委員会 U.)